

平成 19 年 1 月 26 日

歯科医師臨床研修への地方行政および国立保健医療科学院の対応

国立保健医療科学院口腔保健部長
花田信弘

1. 国立保健医療科学院における指導歯科医の養成

歯科医師臨床研修の義務化に対して、国や地方行政の研修施設における対応が始まっている。厚生労働省の研修・研究機関である国立保健医療科学院では、保健所における歯科医師臨床研修の推進を図るため、保健所に勤務する歯科医師に対する指導医研修を行っている。本研修を保健所に勤務する歯科医が受講することによって、厚生労働省医政局長と国立保健医療科学院長の連名による「修了証書」が交付され、指導歯科医として認定される。

資料：特定研修；保健所に勤務する歯科医師に対する指導医研修

2. 国立保健医療科学院における研究管理委員会の質の強化

また、研究管理委員会委員長に対する 2 日間の研修も行い、臨床研修と修了認定に関するさまざまな問題に関する議論を深めている。

資料：特定研修の実施；研究管理委員会委員長に対する研修（資料）

3. 行政機関における臨床研修医の受け入れ状況

厚生労働省：国立保健医療科学院では平成 17 年度から関東地方の医学部の依頼により、医師の臨床研修の受け入れを行っている。しかし、歯学部からの歯科医師の臨床研修の依頼はない。なお、本院口腔保健部長（花田）は日本口腔衛生学会が認定する「地域歯科保健指導医」の資格があり、希望があれば臨床研修歯科医を直接本院で受け入れることができる。

保健所：保健所においてはこれまで医師の臨床研修の受け入れを行っている。しかし、歯科医師の受け入れに関しては実績がない。今後、歯科医師の臨床研修の受け入れが進むことが予想されるので、指導体制の充実が望まれる。カリキュラムは医師の臨床研修と大差ないものになると考えられる。本院で行われた保健所に勤務する歯科医師に対する指導医研修において、カリキュラムの検討が行われた。平成 18 年度報告書に記載されている 2 つの事例を資料として提出する。

資料：臨床研修のカリキュラム（事例）

滋賀県の事例

新潟市の事例

以上

**■ コース内容****【特定研修】臨床研修指導歯科医（保健所）養成コース**

お問い合わせ先：教務課教務第二係 048-458-6189

様式については、別途お知らせする研修案内又は実施要綱等を参照してください。

目的

臨床研修指導歯科医（保健所）が、指導歯科医としての役割を実践し効果的な臨床研修を行うために、新しい卒後研修制度及びその理念と一般目標、行動目標を理解し、プライマリ・ケアの習得に必要な望ましい研修プログラム（地域保健・医療）に基づき、研修歯科医を学習原理にしたがって効果的に指導し評価する能力を身につける。

研修のねらい

- ・ 地域保健医療分野における指導歯科医の役割を理解する
- ・ 学習理論を理解する
- ・ 指導方法、評価方法を理解する
- ・ 研修カリキュラムの計画方法を理解する
- ・ ケースメソッドによる公衆衛生教育を受講する

研修内容

新歯科医師臨床研修制度と保健所指導歯科医
地域保険医療分野における指導歯科医の役割
学習理論、指導方法、評価方法

研修カリキュラムの計画方法（カリキュラム、プランニング）等
研修はワークショップ形式（参加者主体の体験型研修）で行います。

研修期間

平成18年8月23日（水）から平成18年8月24日（木）まで。

募集定員

15名

受講資格

原則として3年以上の公衆衛生実務経験を有する保健所等の行政機関に勤務する歯科医師

受講願書等の受付期間

平成18年6月2日（金）までに本院に必着するように郵送して下さい。

受講者の選考

書類審査により受講の可否を決定します。なお、応募状況に応じて地域ブロック等を勘案して受講人数を調整することがあります。

受講許可等の通知

受講の可否については派遣機関に通知します。その後、受講者あて時間表等必要書類を送付します。



■ コース内容

【特定研修】歯科医師臨床研修制度・研修管理委員会・委員長研修

お問い合わせ先：教務課教務第二係 048-458-6189

様式については、別途お知らせする研修案内又は実施要綱等を参照してください。

目的

臨床研修とその質の向上のためのマネジメントを理解し、研修プログラムの実施及び評価を管理する技能の習得を目的とします。具体的には、研修の中断や再開、研修修了の基準、臨床研修において認識すべき歯科医療・労働関係法規、複数の病院・施設が関係する臨床研修の留意点、病院の安全管理といった側面も含めて、講演と参加型セッションという形式で実施します。

受講対象者

臨床研修指定病院（単独型及び管理型）における研修管理委員会の委員長で業務や健康に支障を来たすことなく、全期間を通して研修に参加できる者。

研修日程・定員

日 程 未定 決定次第お知らせいたします。

定 員 50名

研修目標及び内容

| 研修目標 | 研修内容 |
|--|--|
| 1. 教育と診療、安全のバランスを考慮したシステムを理解する | 研修体制の課題 臨床研修における歯科医療安全の課題： 総論、各論 卒後臨床教育の展望：シンポジウム |
| 2. 学習理論に基づいた研修教育（歯科医学教育・技法を含めた）の概要を理解する。 | 歯科医師臨床研修の現状と課題 研修教育のありかた |
| 3. 研修中断・再開、研修修了の基準について理解する。 | |
| 4. 臨床研修において認識すべき歯科医療及び労働関係法規を理解する | 現在の臨床研修制度について：修了基準等を含む |
| 5. 複数の病院、施設が関係する臨床研修の留意点に配慮する。 | 研修歯科医のメンタルヘルス、トラブルシューティングについて |
| 6. 経営のバランスを考慮したシステムを理解する。 | 経営管理の観点から見た臨床研修 |

必要諸経費等

受講料は必要ありません。研修出席に伴う旅費・宿泊費・食費等は各自で負担して下さい。

修了証書の交付

研修の全期間出席し、研修を修了した方には修了証書（厚生労働省医政局長及び国立保健医療科学院長の連名）を交付いたします。

受講申込手続き

別途、研修指定病院及び研修指定予定病院あて配布予定の募集要項に従い受講申込みを行ってください。

受講の可否について

定員の範囲内で受講の可否を決定します。受講希望者数が定員を超える場合には、地域ブロック等を勘案して書類選考させていただきます。結果は受講申込者あてに郵送にて通知いたします。

その他

研修に際し、本院寄宿舍が利用できます。但し、長期研修での入居希望を優先しますのでご希望にそえない場合もあります。空き状況については受講許可後、（財）公衆衛生振興会あて照会してご確認ください。利用できない場合は、各自で宿泊場所を手配願います。

平成18年度 特定研修 臨床研修指導歯科医(保健所)
養成コース 講義資料

平成18年 8 月 24 日 (木)

13 : 40 ~

演習 (保健所での
医師臨床研修の現状)

講師 毛利 好孝
井下 英二

セッション記録 (8/24(木) 13:40~14:20、記録者:溝口恭子)

テーマ: 保健所での医師臨床研修の現状(担当:井下・毛利講師、
藤山…受講者)

【報告】

滋賀県および新潟市では、医師と歯科医師の区別なく原則同じ臨床研修プログラムを合同で実施し、公衆衛生全般および歯科保健について研修を行っていた。

とくに新潟市には、歯学部を有している大学が2校あるため、受け入れには苦慮しており、今後の課題とのことであった。

カリキュラムの作成においては、一般目標 (GIO)、行動目標 (SBOs) を設定の上、目標達成のために研修医が学ぶべき学習方略が具体的に示されていた。研修カリキュラムの作成過程では以下の内容を視野にいれて行ったことが報告された。

目標を明確にすることにより、研修医においては学ぶべき内容の目標について理解が深まり、モチベーションが上がる。また、指導者間では目標に共通の理解が得られ、研修方法の準備や研修計画を立てやすくなる。さらに、学習進度についての情報交換がしやすくなり、効率的かつ効果的に研修が進んでいるか共有しやすくなる。

さらに、目標を設定することにより、研修による行動の変化についての評価も明確になる。その結果に基づいて、研修中においても効果的に遂行されているかを研修医と指導者間で確認でき、その後の研修内容に反映することも可能になる。

実際のカリキュラム作成においては、各部署の協力を得られるよう調整することに一番労力を要するとのことであった。指導者側においては、目標を共有し、相談・実践できる同士を少しずつ増やしていく必要性を感じた。

歯科医師の場合は、ほとんどが開業医になっていくことをふまえ、歯科医師臨床研修「地域保健・医療」における研修歯科医のダイヤモンドと指導歯科医としてのニーズを整理し、カリキュラムに反映させていくことも重要と考えられた。

先進的に取り組まれている保健所の臨床研修のレベルの高さと研修歯科医自身が主体となり自律的に学べるよう熱心に支援しながら、研修歯科医のロールモデルとなっている姿に感銘した。

配付資料「臨床研修医 月間予定表 等 3 頁」

講師 井下 英二

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----------------------|---------------------|----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|--------------------|
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| A | オリエンテーション (所長他) | 食品衛生講義 (並河) | HIV講演見学 (大津高校) (澤) | 栗享講義 (大友) | ケアセンターおおつ(介護) 結核診査会 (所長) | |
| B | | 結核 定期外健診 (高田) | 給食施設指 導 (関電・山中) 医療安全相談室 | 届出書の作 成 講義 (武田、澤村) | | |
| C | | | | | | |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| A | | 母子保健(大津市) | 皇子山こどもクリニック | 皇子山こどもクリニック | 皇子山こどもクリニック | |
| B | | 村田内科診療所 | 村田内科診療所 | 村田内科診療所 | ケアセンターおおつ(介護) | |
| C | | みずき皮膚科クリニック | みずき皮膚科クリニック | 食品監視(金岡他) | みずき皮膚科クリニック | |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| A | 皇子山こどもクリニック | 皇子山こどもクリニック | 医療安全相談室 | 精神作業所 見学 (ホワイテクラブ) (原田) | 結核診査会 (所長) | |
| B | 村田内科診療所 | 母子保健(大津市) | 村田内科診療所 | | | |
| C | みずき皮膚科クリニック | 母子保健(大津市) | みずき皮膚科クリニック | | ケアセンターおおつ(介護) | |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| A | 衛生科学センター | 難病訪問(谷本) | 医療監視 準備 (所長) | ヘルスプロモーション・健 健(井下) | ランサクラブ (鈴木) | 健康危機管 理 (所長) |
| B | 衛生科学センター | 食品監視(金岡他) | 滋賀医大 医療監視 (所長) | | | |
| C | 衛生科学センター | 難病訪問(谷本) | | | | |
| 30 | 31 | | | | | |
| A | 自己評価表 の作成 (井下) | | | | | |
| B | | | | | | |
| C | | | | | | |

第一週

第二週

第三週

第四週

第五週

保健所医師臨床研修プログラム(地域医療・歯科保健医療)

| 学習方略 (Learning Strategies) | | 参考資料 | |
|---------------------------------|------|------|------|
| 行動目標 | 方法 | 時間 | 人的資源 |
| 口腔機能と介護予防等全身状況との関連性を理解できる | 講義 | 2 | 歯科医師 |
| 誤嚥性肺炎と口腔ケアの関連性を理解できる | | | |
| 科学的根拠に基づいた口腔ケアの理解ができる | | | |
| 病院内における歯科専門職種の重要性が理解できる | | | |
| 歯科健康診断票を記入できる | | | |
| 口腔予防において対象に応じたフッ化物応用方法を理解し適用できる | 実習講義 | 2 | 歯科医師 |
| 口腔予防のためのフッ化物応用の安全性と効果について理解できる | | | |
| 歯周疾患の治療、予防のためのブラッシングの方法を実践できる | | | |
| 歯周疾患と全身疾患や生活習慣との関連性を理解できる | | | |
| 児童虐待と口腔ケアの多発との関連性を理解できる | 講義 | 1 | 歯科医師 |

学習方略 (Learning Strategies)

参考資料

- ・国民衛生の動向
- ・口腔と全身の健康との関係 (8020 推進財団)
- ・口腔と全身の健康との関係Ⅱ (8020 推進財団)
- ・口腔と全身の健康状態に関する文献調査報告書 (1) (8020 推進財団)
- ・歯周病と生活習慣病の関係 (8020 推進財団)
- ・保健医療科学第52巻1号「口腔保健のこれから」
- ・歯科医師のための児童虐待理解のために (財) 口腔保健協会
- ・歯周病と全身の健康を考える
- ・(財) ライオン歯科衛生研究所編 歯周病と全身の健康に関する関係について
- ・口腔保健と全身的な健康状態の関係について
- ・小林修平編 (財) 口腔保健協会
- ・「介護予防向上のための口腔機能改善推進のための支援体制整備事業」報告書 (社) 全国国民健康保険診療施設協議会, 2004.
- ・フッ化物応用と健康 ― フッ化物と安全性 ― (口腔保健協会)
- ・フッ化物によるむし歯予防 (医歯薬出版)
- ・(日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会編)
- ・歯科衛生士別冊 歯科衛生士のための臨床論文の読み方 (クインテッセンス出版)
- ・EBMIに基づいた口腔ケアのために 必読文献集 (医歯薬出版)
- ・予防歯科実践ハンドブック 医歯薬出版, 2004
- ・明日からできる地域での予防歯科 (医歯薬出版)
- ・口腔予防のためのフッ化物塗布剤マニュアル (社会保険研究所)
- ・介護予防研修テキスト (社会保険研究所)
- ・「病院歯科における口腔ケア実施に関する実態調査」
- ・8020 推進財団、日本病院歯科口腔外科協議会

所内